

スカシユリタイプ‘秀煌’の特性について

松川時晴・近藤英和・小林泰生・豆塚茂美・木野正実 (福岡県農業総合試験場・福岡県嘉穂農業改良普及所)

MATSUKAWA, T., H. KONDO, Y. KOBAYASHI, S. MAMETSUKA and M. KINO : On the characteristics of Lilium hybrids ‘Shuko’

最近のスカシユリのグループは‘エンチャントメント’を交配した多彩な品種が多く、そのため発芽、生育、花容、球根肥大、耐病性などで優れた品種が多い。しかしウイルス病抵抗性では育種的に未解決で品種絶滅の主因となった事例も少なくない。本県内で育成の“秀煌”は花容、草姿が‘エンチャントメント’に酷似し、しかも暖地の栽培でもウイルス病徴がみられず、超促成栽培と二度切り栽培ができる品種と期待されたので、育成経過と時性の概要を報告する。

1. 育成経過

“秀煌”は岡松秀次(嘉穂郡穂波町)が耐ウイルス病の品種を育成の目的で交雑を行ったうち、1969年6月「トサヒメユリ×羽衣(コオニユリ×晩金武扇)」の交配で1朔果を得て20個体を育成し、1974年までの栽培で選抜した明橙色、受咲き、多花性、高性で草姿が良い品種である。当初、りん片繁殖、1978年から切花栽培と木子繁殖を併行して増殖してきた。福岡県新品種審査会でブルーリボン賞を

えて、現在、農林水産省に品種登録を出願中である。

2. 特性の概要

開花は露地栽培では5月20~30日、促成栽培では9月27日定植が12月17日であった。花色は明橙色(R.H.S.カラーチャート=30-C)、中輪、受咲き、多花性で、花序はコオニユリ型、花卉の展開は適度で隙間がない。茎はしなやかでも折れにくく、基部にわずかなアントシアン着色がある。葉は濃緑色、立葉、やや軟質、中葉性で光沢はない。球根は下狭扁円形でしまりが良く、成球はクリーム白色で、球重約45g、りん片数約50枚の中球性である。球芽は着生しないが、繁殖力は強い。草丈は75~90cmの高性で、切花の水あげがよい。全体として‘トサヒメユリ’の花色の明るさ、受咲き性、茎のしなやかさを持ち、“羽衣”の花序、多花性、強健性を兼ね備えた、暖地で球根生産と切花ができる品種と考えられる。超促成栽培の冷蔵反応は7.5℃が良く、11月上中旬に開花し、その二度切り栽培も4月下旬に開花しており、栽培容易である。

第1表 超促成栽培と二度切り栽培の主要開花特性

区	超 促 成 栽 培											二度切り栽培					
	冷 蔵 週数	温 度 ℃	発 芽 日数	芽 率 %	開花日 月日	所要日数		花数	草丈 cm	葉数 枚	切花 重量 g	開花率 %	開花日 月日	花数	草丈 cm	葉数 枚	開花率 %
						発芽	開花										
1	6	0	49	33	—	—	—	—	—	—	—	—	(4.29)	(5.7)	(72.5)	(68.7)	(100)
2	(9月7日定植)	2.5	40	70	12.20	54	104	7.6	61.1	53.6	39.5	53					
3		5	17	100	11.12	26	66	5.1	49.4	30.1	29.1	100	5.6	1.7	57.2	39.3	80.0
4		7.5	13	100	11.5	22	59	4.4	46.6	31.0	28.4	100					
5		10	19	100	11.13	31	67	5.0	47.0	32.6	28.0	100	4.26	2.6	51.0	83.3	87.0
6	7	0	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	(4.25)	(5.2)	(62.8)	(63.7)	(50)
7	(9月14日定植)	2.5	40	70	12.29	55	106	8.2	63.7	57.9	41.5	50	4.21	6.3	58.8	59.2	43.0
8		5	15	100	11.15	26	62	5.2	52.5	32.0	32.2	100	4.24	1.8	41.0	37.2	43.0
9		7.5	13	100	11.12	23	59	4.0	47.5	30.3	28.3	100	4.24	2.3	46.7	40.2	43.0
10		10	20	100	11.20	32	67	4.8	44.0	35.0	28.9	100	4.25	3.3	49.9	39.8	80.0

注) 掘上げ=7月4日。湯湯処理=43℃45分間。冷蔵始め=7月27日。

二度切り栽培の1区、6区の()は超促成栽培で不発芽となったもの。